MITSUBISHI/HITACHI
MITSUBISHI HITACHI HOME ELEVATOR

# 巻胴式エレベーター

## ホームエレベーター〈スイ～とホーム、スイ～とホームＳ〉
## 小規模建物用小型エレベーター〈スイ～とモア、スイ～とモアＳ〉
## 小規模共同住宅用エレベーター〈スイ～とメゾン〉

# 定期検査用資料

### ◇◇◇ はじめに ◇◇◇

定期検査の基本的な内容は「定期検査業務基準書」に従って実施してください。

本資料は、巻胴式のホームエレベーター＜スイ～とホーム、スイ～とホームＳ＞、小規模建物用小型エレベーター＜スイ～とモア、スイ～とモアＳ＞、小規模共同住宅用エレベーター＜スイ～とメゾン＞の定期検査に関する基準、技術情報並びに定期検査時に必ず実施いただきたいことなどを記載しています。

検査者は検査実施の前に必ず本資料をお読みいただき、注意事項や検査基準を確実にお守りください。

所有者や管理者、第三者の方は原則、昇降路に入らないでください。

本資料の内容は、昇降機の定期検査以外の目的では使用しないでください。
昇降機の検査資格者以外の方が本資料により知りえた情報を元に、エレベーターを操作した場合、思わぬ事故が起こるおそれがあります。

●昇降機の定期検査は昇降機等検査員資格者にご依頼ください。
●検査者は、検査員資格者の心得をもち、安全に十分配慮して検査に臨んでください。
●定期検査実施時は、検査対象の機器をよく確認の上実施してください。
当社は検査者が検査基準を取り違えて検査したことに起因する事故や不具合などについては一切、責任を負いません。
●本資料に掲載されている機器の形状は代表的なものですので、実際の製品とは一部異なる場合がありますので、あらかじめご承知おきください。
●本資料は予告なく改定する場合がありますので、検査前に最新資料を必ずご確認ください。最新資料は以下のＵＲＬにて確認することができます。
三菱日立ホームエレベーター株式会社　https://www.mh-he.co.jp/



2025 年 4 月 30 日版

◆目次

１．巻上機の潤滑油量
２．ブレーキパッド残存厚み基準
３．外部への連絡装置
４．電動機主回路用接触器及びブレーキ用接触器・継電器
５．戸開走行保護装置
　５−１．巻上機の型式
　５−２．巻上機部分（減速機・電動機）
　５−３．ブレーキの制動力
　５−４．ブレーキパッドの厚さ
　５−５．ブレーキパッドの動作感知装置
　５−６．安全制御プログラム
　５−７．かご戸スイッチ
　５−８．乗場戸スイッチ
　５−９．エプロン

別紙．戸開走行保護装置検査記録表

## 表示マークの定義

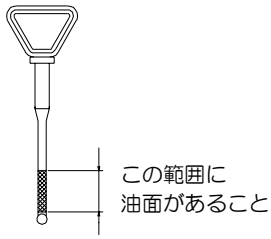
●本資料に記載の“図記号”の定義

| | |
|---|---|
| | 必ず実施いただきたい事(守っていただきたい事)を表します。 |
| | 「禁止事項」（禁止行為）を表します。 |

## １．　巻上機の潤滑油量

**◆減速歯車の潤滑油量の確認方法**

巻上機にはオイルレベルゲージがあります。右図を参照して油量が図示の範囲にあることを確認してください。（一度レベルゲージを抜き取り、油をウエスなどで拭き取って再度挿入し油面を確認ください。）




## ２．　ブレーキパッド残存厚みの基準

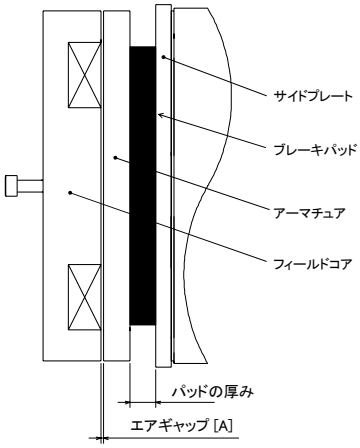
パッドの残存厚みを下記により確認してください。

- パッドの残存厚みをエアギャップで管理します。エアギャップをシックネスゲージで測定して確認ください。
- エアギャップは調整しないでください。調整した場合、本基準は適用できません。
- エアギャップはブレーキ円周上において最も大きい箇所で測定してください。
- 摩耗粉が多い場合は清掃後に測定してください。
- 下記基準は「昇降機製造者が納入する純正ブレーキ」使用時の値です。ブレーキ型式に応じて下表により判定してください。

**◆パッドの残存厚みの製造者設計基準**

| ブレーキ型式（※１） | エアギャップ［Ａ］ | |
|---|---|---|
| | 要是正基準 | 要重点点検 |
| ＲＮＢ　２Ｇ－３８ | ０．４５mm以上 | ０．４０mm以上 |
| ＳＢＭ－１４０－０１０ | ０．４０mm以上 | ０．３５mm以上 |
| ＳＢＭ－１３０－０１１ | | |

※１：ブレーキの名板で型式を確認してください。




## ３．　外部への連絡装置

電話機またはインターホンまたは非常ブザーのいずれかの装置が正常に作動することを確認してください。但し、設置されている装置は機種により異なります。なお、作動確認は制御盤点検扉内の『ＭＣＢ』及び『ＬＩＧＨＴ．Ｂ』を遮断した状態で行ってください。

- かご内に設置されている電話機が通話可能なこと。
- かご操作盤の「ベルマーク」／「受話器マーク」ボタン（非常ブザーボタン）を押してかご上運転装置からブザーが鳴ること。
- インターホンが通話可能なこと。

## ４．　電動機主回路用接触器及びブレーキ用接触器・継電器

● 電動機主回路用接触器及びブレーキ用接触器・継電器の名称とフェールセーフ設計の該当・非該当については下記となります。

| 制御方式 | 電動機主回路用接触器 | | ブレーキ用接触器・継電器 | |
|---|---|---|---|---|
| | 接触器名称 | フェールセーフ設計 | 接触器・継電器名称 | フェールセーフ設計 |
| ＶＦＧＳＡ | ５（※１） | 該当 | ５ | 該当 |
| | | | Ａ（※１） | 該当 |

備考：５は電磁接触器、Ａは電磁継電器です。
電動機主回路とブレーキ用の“５”接触器は、同一の接触器です。
（電動機主回路：２接点、ブレーキ用：１接点）
検査結果表には、※１の接触器・継電器の最終交換日を記載してください。

## ５．　戸開走行保護装置

戸開走行保護装置として次の５－１～５－９を確認してください。

定期検査報告に当たっては別紙の『戸開走行保護装置検査記録表』を必要に応じ活用ください。

制御盤に戸開走行保護装置の形名及び大臣認定の番号が表示されているので、必ず確認すること。尚、戸開走行保護装置の形名により検査方法が異なるので、間違えることのないように充分注意して確認ください。

### ５－１　巻上機の型式

戸開走行保護装置の形名『ＭＭＰＲ－００６形』のみ検査対象となります。

巻上機の型式を確認してください。

● 巻上機の型式が以下であること。

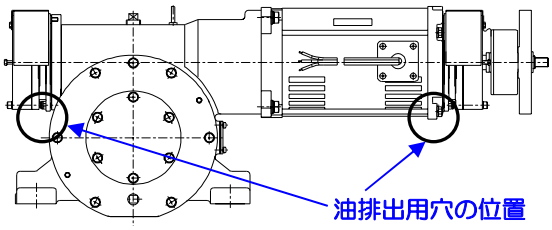
| 戸開走行保護装置 | | 巻上機型式 |
|---|---|---|
| 形名 | 大臣認定番号 | |
| ＭＭＰＲ－００６形 | ＥＮＮＮＵＮ－２５６８ | ＥＭ－１２１１（－■）　（※１） |

※１：巻上機型式末尾の“－■”は管理識別副番（初期は空欄）を表します。

### ５－２　巻上機部分（減速機・電動機）

油漏れが無いことを確認してください。

● 制動面への油の付着がないこと。
● 右図の油排出用穴に油や油が流出した痕跡がないこと。




### ５－３　ブレーキの制動力

工場出荷後にトルクの調整が行われていないことを確認し、制動力が適正であるか確認してください。また、年次変化量が規定値以内であることを確認してください。

● トルク調整ボルトの工場出荷時のマーキングにずれがないこと。
（ブレーキ型式：ＲＮＢ２Ｇ－３８、ＳＢＭ－１４０－０１０のみ確認必要。）
● 無負荷下降時のかごの制止距離が下表に示す距離以下であること。
● 前年検査時の制止距離に対し、当年検査時の制止距離の変化量が以下であること。
（戸開走行保護装置形式：ＭＭＰＲ－００６のみ確認必要。）
● 変化量の増加分と当年検査時制止距離の合計値が下記表の制止距離以下であること。本方法で合計値が制止距離を越える場合は「要重点点検」と判断する。なお、変化量が減少した場合は変化量なしとして計算してください。

【ＭＭＰＲ－００６の場合】
＜測定方法：ア（片側ブレーキごとでの測定）＞を参照

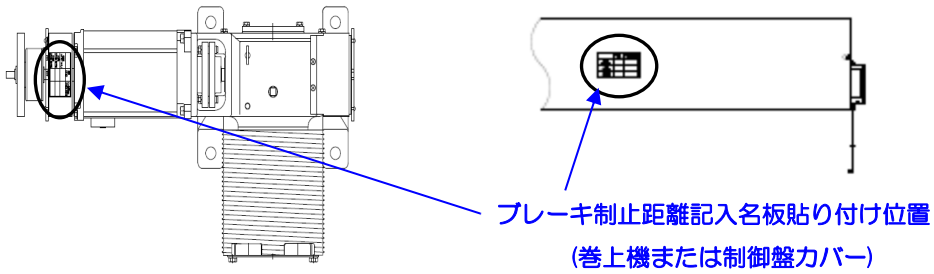
| ブレーキ型式 | 下降時定格速度（m/ｍｉｎ） | 制止距離（mm） | 変化量（mm） |
|---|---|---|---|
| ＲＮＢ２Ｇ－３８ | ２０ | ２８ | １２ |
| | ３０ | ６４ | ２７ |

【ＭＭＰＲ－００６以外の場合】
＜測定方法：イ（両側ブレーキ同時測定）＞を参照

| ブレーキ型式 | ＤＲ ＲＯＭ型名（※２） | 下降定格速度（m/ｍｉｎ） | 制止距離（mm） |
|---|---|---|---|
| ＲＮＢ２Ｇ－３８ | ＤＲＦ１４－■ | ２０ | ３７ |
| | | ３０ | ７１ |
| ＳＢＭ－１４０－０１０ | ＤＲＦ１４－■ | ２０ | ４０ |
| | | ３０ | ７０ |
| ＳＢＭ－１３０－０１１ | ＤＲＦ１４－■ | ２０ | ３０ |
| | ＤＲＦ１７－■ | ２０ | １５ |

※２：制御盤内のＰ１Ｃ－Ｍ１■■基板に搭載されたＲＯＭです。
基板型名およびＲＯＭ型名末尾の“■”は、識別管理副番を表します。

◆ブレーキ制止距離名板貼り付け位置
初回またはブレーキ交換時等の数値が記載された名板の貼り付け位置は下図の通りです。

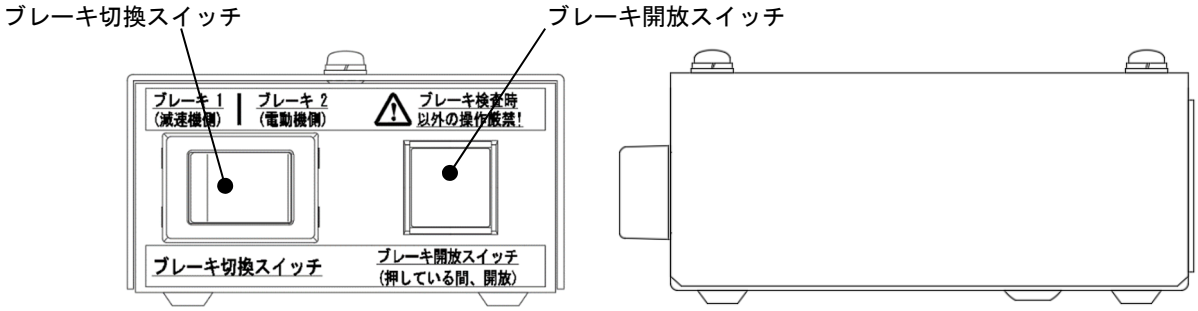



**◆制止距離の測定方法**
**＜測定方法：ア（片側ブレーキごとでの測定）＞**
片側ブレーキごとの制動力検査は、ブレーキ検査治具を用いる方法（ア-①）と、ソフトウェア機能を用いる方法（ア-②）があります。下表を参照して、ＣＣ０ ＲＯＭ型名に応じた測定方法で実施ください。

| ＣＣ０ ＲＯＭ型名（※３） | 測定方法 |
|---|---|
| ＣＣＪ１７Ｌ－Ｇ以前 | ア-① |
| ＣＣＪ１７Ｌ－Ｈ以降 | ア-②<br>※ただし、ブレーキ検査治具があればア-①での測定も可能 |

※３：制御盤内のＰ１Ｃ－Ｍ１■■基板に搭載されたＲＯＭです。
ＲＯＭ型名における「－」（ハイフン）以降のアルファベットは、識別管理副番（バージョン）を表します。
（旧から順に、Ａ→Ｂ→・・・→Ｚ→ＡＡ→ＡＢ→・・・→ＡＺ→ＢＡ→・・・と続きます。）

## 【ア-①：ブレーキ検査治具を用いる方法】




ブレーキ検査治具

手順１　受電盤内の『ＭＣＢ』をＯＦＦにする。

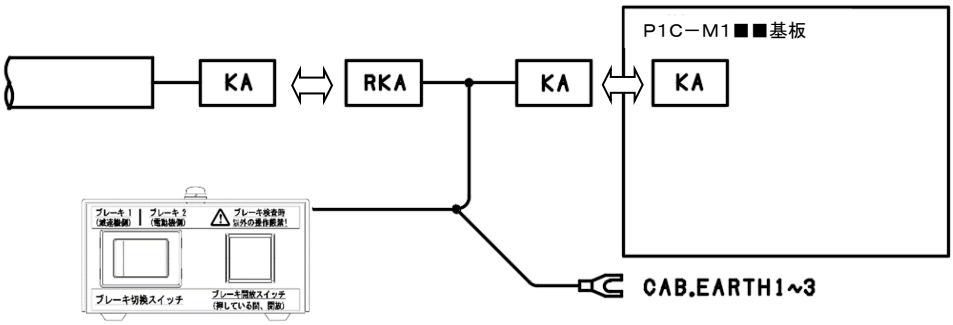
手順２　下図の通りブレーキ検査治具を制御盤に接続する。

・Ｐ１Ｃ－Ｍ１■■基板上「ＫＡ」コネクタを取外す。

・取外した「ＫＡ」コネクタをブレーキ検査治具の「ＲＫＡ」コネクタに接続する。

・ブレーキ検査治具の「ＫＡ」コネクタをＰ１Ｃ－Ｍ１■■基板上の「ＫＡ」コネクタに接続する。

・ブレーキ検査治具の圧着端子を制御盤内の「ＣＡＢ．ＥＡＲＴＨ１～３」のいずれかに取付ける。




ブレーキ検査治具接続図

手順３　受電盤内の『ＭＣＢ』をＯＮにする。

手順４　検査治具の「ブレーキ切換スイッチ」を測定する対象ブレーキ側へ倒す。

手順５　全自動運転にて、かごを最下階より上方の階に停止させる。（最下階より上方約１１７５mmの位置で定格速度にて走行できる階に停止させる。）

手順６　Ｐ１Ｃ－Ｍ１■■基板上のロータリースイッチを ＭＯＮ１＝Ｂ、ＭＯＮ２＝０に設定する。

手順７　最下階の乗場の呼びボタンを押し、かごを走行させる。

手順８　かご走行中にＰ１Ｃ－Ｍ１■■基板上の『ＡＵＴＯ/ＨＡＮＤ』スイッチを「ＨＡＮＤ」にする。
ＨＡＮＤ運転に設定後、底部安全距離確保スイッチ（ＤＳＲ）動作点で急停止する前に検査治具の「ブレーキ開放スイッチ」を押し続ける。（押し続ける間は、検査対象と反対側のブレーキが開放し続ける。）

［注］「ブレーキ開放スイッチ」は、検査時以外（ＡＵＴＯ時など）に押さないこと。
検査時以外に押してブレーキ系異常検出（ブザー鳴動など）した場合は、Ｐ１Ｃ－Ｍ１■■基板上の『ＡＵＴＯ/ＨＡＮＤ』スイッチを「ＨＡＮＤ」に倒して復帰させること。

手順９　底部安全距離確保スイッチ（ＤＳＲ）が作動した位置で、かごが急制動し、停止する。
かごが完全に停止したことを確認してから、検査治具の「ブレーキ開放スイッチ」を離す。

手順 10　Ｐ１Ｃ－Ｍ１■■基板上の７セグメントＬＥＤに制止距離が表示される。

手順 11　上記５～１０を３回繰返した平均値を点検時の制止距離と判断して記録する。

手順 12　上記４に戻り、検査したブレーキと反対側のブレーキも同様に検査を実施する。

手順 13　検査完了後、取り外した検査治具はピット内に保管すること。
「ＫＡ」コネクタ、「ＣＡＢ．ＥＡＲＴＨ」などの配線は確実に元に戻すこと。

**【ア-②：ソフトウェア機能を用いる方法】**

手順１　全自動運転にて、かごを最下階より上方の階に停止させる。（最下階より上方約１１７５mmの位置で定格速度にて走行できる階に停止させる。）

手順２　＜ブレーキ１（減速機側）を検査する場合＞
Ｐ１Ｃ－Ｍ１■■基板上のロータリースイッチを ＭＯＮ１＝Ｂ、ＭＯＮ２＝１に設定する。
＜ブレーキ２（電動機側）を検査する場合＞
Ｐ１Ｃ－Ｍ１■■基板上のロータリースイッチを ＭＯＮ１＝Ｂ、ＭＯＮ２＝２に設定する。

手順３　最下階の乗場の呼びボタンを押し、かごを走行させる。

手順４　かご走行中にＰ１Ｃ－Ｍ１■■基板上の『ＡＵＴＯ/ＨＡＮＤ』スイッチを「ＨＡＮＤ」にする。

手順５　底部安全距離確保スイッチ（ＤＳＲ）が作動した位置で、かごが急制動し、停止する。

手順６　Ｐ１Ｃ－Ｍ１■■基板上の７セグメントＬＥＤに制止距離が表示されるので、この距離を記録する。

＜注意１＞　７セグメントＬＥＤに“－－－”と表示された場合は、計測が正常に完了していない。計測機能の一時的な問題である可能性があるため、ＣＰＵをリセットし、手順１に戻って再度実施すること。これを数回実施しても解消しない場合は、ブレーキに何らかの異常がある可能性がある。

＜注意２＞　次の手順７に進む前に、必ず手順６を実施すること。

手順７　Ｐ１Ｃ－Ｍ１■■基板上の『ＡＵＴＯ/ＨＡＮＤ』スイッチを「ＡＵＴＯ」にすると自動的に低速で最寄り階にかごが移動する。

手順８　上記手順１～手順６を３回繰返した平均値を点検時の制止距離と判断して記録する。

手順９　ブレーキ１とブレーキ２、それぞれ検査を実施すること。

手順10　制止距離確認後、ロータリースイッチを ＭＯＮ１＝８、ＭＯＮ２＝０に戻す。

**＜測定方法：イ（両側ブレーキ同時測定）＞**

手順１　全自動運転にて、かごを最下階より上方の階に停止させる。（最下階より上方約１１７５mmの位置で定格速度にて走行できる階に停止させる。）

手順２　Ｐ１Ｃ－Ｍ１■■基板上のロータリースイッチを ＭＯＮ１＝Ｂ、ＭＯＮ２＝０に設定する。

手順３　最下階の乗場の呼びボタンを押し、かごを走行させる。

手順４　かご走行中にＰ１Ｃ－Ｍ１■■基板上の『ＡＵＴＯ/ＨＡＮＤ』スイッチを「ＨＡＮＤ」にする。

手順５　底部安全距離確保スイッチ（ＤＳＲ）が作動した位置で、かごが急制動し、停止する。

手順６　Ｐ１Ｃ－Ｍ１■■基板上の７セグメントＬＥＤに制止距離が表示される。

手順７　Ｐ１Ｃ－Ｍ１■■基板上の『ＡＵＴＯ/ＨＡＮＤ』スイッチを「ＡＵＴＯ」にすると自動的に低速で最寄り階にかごが移動する。

手順８　上記１～６を３回繰返した平均値を点検時の制止距離と判断して記録する。

手順９　制止距離確認後、ロータリースイッチを ＭＯＮ１＝８、ＭＯＮ２＝０に戻す。

## ５－４　ブレーキパッドの厚さ

戸開走行保護装置の形名『ＭＭＰＲ－００６形』のみ検査対象となります。

２項により確認してください。

## ５－５　ブレーキパッドの動作感知装置

スイッチが正常に作動することを確認してください。

- 装置部分の固定部緩みや錆、ゴミが無いこと。
- ブレーキの開閉動作に応じてスイッチが作動することが、５－６項により確認できること。

## ５－６　安全制御プログラム

基板の型式及びＲＯＭの型式を確認してください。また各信号の入力が正常であることを確認してください。

- 基板の型式が「Ｐ１Ｃ－Ｍ１■■」であること。
- Ｐ１Ｃ－Ｍ１■■基板上のＣＣ０　ＲＯＭに記載の認定プログラム型式が「ＭＡＵ－Ｇ００１」であること。
  本項目は戸開走行保護装置の形名『ＭＭＰＲ－００６形』のみ検査対象となります。
- Ｐ１Ｃ－Ｍ１■■基板上の『ＡＵＴＯ－ＨＡＮＤ』スイッチを「ＨＡＮＤ」側にし、『ＵＰ－ＤＮ』スイッチにてかごをドアゾーン外で手動走行させているときに、乗場戸錠外し鍵を用いて、乗場戸のインターロックのラッチを押し上げると、かごが急停止すること。
- 下記（１）～（４）を確認すること（Ｐ１Ｃ－Ｍ１■■基板上のロータリースイッチが、ＭＯＮ１＝８、ＭＯＮ２＝０（標準設定）であること）。

（１）Ｐ１Ｃ－Ｍ１■■基板上のＬＥＤ　ＷＤＴが常時点灯していること。

（２）Ｐ１Ｃ－Ｍ１■■基板上のＬＥＤ　４１ＤＧが以下のとおり点灯/消灯すること。

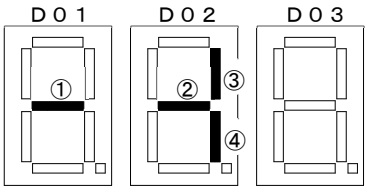
戸開時：消灯　　戸閉時：点灯

（３）Ｐ１Ｃ－Ｍ１■■基板上のＬＥＤ　ＤＺが以下のとおり点灯/消灯すること。

ドアゾーン外：消灯　　ドアゾーン内：点灯

（４）Ｐ１Ｃ－Ｍ１■■基板上の７セグメントＬＥＤ　Ｄ０１およびＤ０２が、下記①～④に記載のとおり点灯/消灯することを確認すること。

| ①戸開閉検出 | ②コンタクタ接点検出 | ③ブレーキスイッチ１ | ④ブレーキスイッチ２ |
|---|---|---|---|
| 戸開時：点灯<br>戸閉時：消灯 | 戸開時：消灯<br>戸閉時：点灯 | 走行時：点灯<br>停止時：消灯 | 走行時：点灯<br>停止時：消灯 |




## ５－７　かご戸スイッチ

作動位置が正常であることを確認してください。

- 戸形式により以下の範囲でスイッチが作動すること。
  両引き戸の場合・・・戸と戸の隙間が１８mm以上かつ２２mm以下
  片引き戸の場合・・・戸が全閉位置から９±１mm
- 検査方法および手順は次のとおりに実施してください。
  フロント／リヤ側がある場合、戸開走行保護装置検査記録表には最大寸法を記入してください。

**◆かご戸スイッチの確認方法**

フロント／リヤ側がある場合は、下記の準備１から順に実施してください。フロント／リヤ側がない場合は、準備作業を飛ばして、手順１から実施してください。

準備１　確認対象のドアがある階にかごを停止させる。

準備２　Ｐ１Ｃ－Ｍ１■■基板上の『ＡＵＴＯ－ＨＡＮＤ』スイッチを「ＨＡＮＤ」側にして、確認対象のドアが自動で開いたことを確認する。

手順１　手動運転にて、かご上に搭乗可能な位置にかごを移動する。搭乗する乗場の床位置より戸の上部が確認できる位置にする。

手順２　乗場の戸を開錠し、戸がほぼ全開した状態に仮止めする。

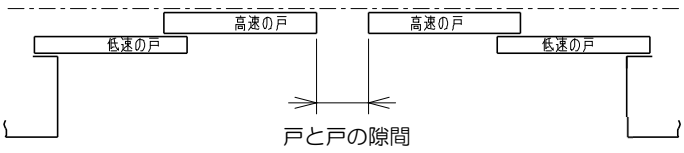
手順３　かご上運転装置の『ＡＵＴＯ－ＨＡＮＤ』スイッチを「ＨＡＮＤ」にする。

手順４　かご上運転装置の『ＤＯＯＲ　ＯＮ－ＯＦＦ』スイッチを「ＯＦＦ」にする。

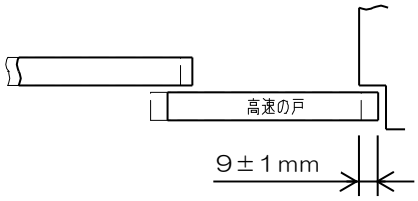
手順５　かご上運転装置のふたを取り外し、基板上の７セグメントＬＥＤを確認する。

手順６　かごの戸を少しずつ開けて（または閉めて）いき、７セグメントＬＥＤの表示が”Ａ”→“ｄ”（または”ｄ”→“Ａ”）に変化するときの戸の位置が上記の範囲であることを確認する。

手順７　測定終了後、かご上運転装置のふたを確実に取付けて全自動運転に戻す。




両引き戸の場合




片引き戸の場合

## ５－８　乗場戸スイッチ

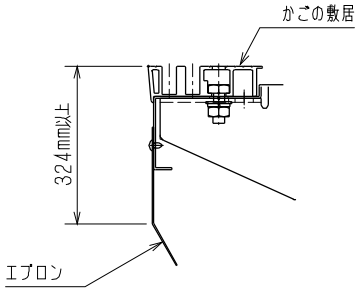
戸開走行保護装置の形名『ＭＭＰＲ－００６形』のみ検査対象となります。
作動位置が正常であることを確認してください。

- 戸と戸、または、戸と戸当り柱の隙間が２５mmを超えてスイッチが作動しないこと。
  各階床測定し、戸開走行保護装置検査記録表には最大寸法を記入してください。

## ５－９　エプロン

外観に異常が無いことと、長さが適正であることを確認してください。

- 過度の変形、破損、腐食が無いこと。取り付け状態に異常がないこと。
- 垂直部下端からかご敷居面までの垂直寸法が３２４mm以上であること。
  フロント／リヤ側がある場合、戸開走行保護装置検査記録表には、
  両側測定し、最小寸法を記入してください。



別紙

## 戸開走行保護装置検査記録表 （三菱日立ホームエレベーター株式会社製エレベーター）

【戸開走行保護装置形名　MMPR-004　以外の場合】

物件情報等:

昇降機の識別 （番号:　　）

| 製品の大臣認定番号 |
|---|
| ENNNUN － |

検査日　:　　年　　月　　日

検査者氏名 :

★は戸開走行保護装置の形名『MMPR-006形』のみ検査対象の項目となります。

| 検査事項 | 検査方法と判定基準 | 検査結果 |
|---|---|---|
| 1. 巻上機★ | (1)巻上機の型式が以下であることを確認する。<br>戸開走行保護装置 形名: MMPR-006形 / 大臣認定番号: ENNNUN-2568 / 巻上機型式: EM-1211 | (型式:　　)<br>良 ・ 否 |
| 2. 巻上機部分（減速機・電動機） | (1)制動面への油の付着がないことを確認する。 | 良 ・ 否 |
| | (2)油排出用穴に油漏れの痕跡がないことを確認する。 | 良 ・ 否 |
| 3. ブレーキの制動力 | 【MMPR-006の場合】★ | |
| | (1)トルク調整ボルトのマーキングにずれがないことを確認する。 | 良 ・ 否 |
| | (2)片側毎ブレーキによる無負荷下降時のかご制止距離、および、前回検査時からの変化量が下表の距離以下であることを確認する。<br>*適用するものを□にレ印を記す<br>ブレーキ型式: RNB2G－38<br>下降定格速度(m/min): 20 / 制止距離(mm): 28 / 変化量(mm): 12 / □<br>下降定格速度(m/min): 30 / 制止距離(mm): 64 / 変化量(mm): 27 / □<br>〈取付ブレーキ〉 ブレーキ1:減速機側 ブレーキ2:電動機側 | 〈ブレーキ1〉<br>制止距離:　mm<br>変化量:　mm<br>合計:　mm<br>〈ブレーキ2〉<br>制止距離:　mm<br>変化量:　mm<br>合計:　mm |
| | (3)前年検査時からの制止距離増加分と今回制止距離との合計値が(2)の制止距離以下であることを確認する。※注1 （前回測定値:〈ブレーキ1〉　mm ,〈ブレーキ2〉　mm ） | 良 ・ 否 |
| | 【MMPR-006以外の場合】 | |
| | (1)トルク調整ボルトのマーキングにずれがないことを確認する。（RNB2G-38、SBM-140-010のみ） | 良 ・ 否 |
| | (2)両側ブレーキによる無負荷下降時のかご制止距離が下表の距離以下であることを確認する。<br>*適用するものを□にレ印を記す<br>ブレーキ型式: RNB2G-38 / DR ROM型名※注2: DRF14-■ / 下降定格速度(m/min): 20 / 制止距離(mm): 37 / □<br>下降定格速度(m/min): 30 / 制止距離(mm): 71 / □<br>ブレーキ型式: SBM-140-010 / DR ROM型名※注2: DRF14-■ / 下降定格速度(m/min): 20 / 制止距離(mm): 40 / □<br>下降定格速度(m/min): 30 / 制止距離(mm): 70 / □<br>ブレーキ型式: SBM-130-011 / DR ROM型名※注2: DRF14-■ / 下降定格速度(m/min): 20 / 制止距離(mm): 30 / □<br>DRF17-■ / 下降定格速度(m/min): 20 / 制止距離(mm): 15 / □<br>※注2）ROM型名末尾の”■”は、識別管理副番を示す。 | (制止距離:　mm)<br>良 ・ 否 |
| ※注1）基準値内でない場合、次の点検時までに許容値を超えるおそれがあるため、点検期間を短くするなどして、制止距離の値が基準内であることの確認が必要です。 | (3)前年検査時からの制止距離増加分と今回制止距離との合計値が(2)の制止距離以下であることを確認する。※注1　（前回測定値:　mm） | (合計値:　mm) |
| 4. ブレーキパッドの厚さ★ | (1)アーマチュアとフィールドコアの隙間が下表の寸法未満であること。<br>ブレーキ型式: RNB2G－38 / 隙間寸法(mm): 0.45<br>〈取付ブレーキ〉 ブレーキ1･･･減速機側 ブレーキ2･･･電動機側 | 〈ブレーキ1〉　mm<br>〈ブレーキ2〉　mm<br>良 ・ 否 |
| 5. ブレーキパッドの動作感知装置 | (1)固定部緩みや錆、ゴミがないことを確認する。 | 良 ・ 否 |
| | (2)ブレーキ開閉動作に応じてスイッチが正常に作動することを確認する。 | 良 ・ 否 |
| 6. 安全制御プログラムの確認 | (1)基板の型式が「P1C－M1■■※注3」であることを確認する。 | (型式:　　)<br>良 ・ 否 |
| | ★(2)P1C－M1■■※注3基板上のCC0 ROMに記載の認定プログラム型式が「MAU－G001」であること確認する。 | (型式:　　)<br>良 ・ 否 |
| | (3)手動走行中、乗場戸錠外し鍵を用いたときに急停止することを確認する。 | 良 ・ 否 |
| | (4)各信号の入力が正常であることを確認する。<br>※注3）末尾の”■”は、識別管理副番を表す。 | 良 ・ 否 |
| 7. かご戸スイッチ | 【両開き戸の場合】<br>(1)戸と戸の隙間が18mm以上かつ22mm以下の範囲でスイッチが作動することを確認する。（フロント/リヤ側がある場合は、両側測定し最大寸法を記入する。） | (　　mm)<br>良 ・ 否 |
| | 【片開き戸の場合】<br>(1)戸が全閉位置から戸が開く側に9±1mmの位置でスイッチが作動することを確認する。 | (　　mm)<br>良 ・ 否 |
| 8. 乗場戸スイッチ★ | (1)戸全閉位置から25mm以下でスイッチが作動することを確認する。（各階床のうち最大寸法を記入する。） | (　　mm)<br>良 ・ 否 |
| 9. エプロン | (1)過度の変形、破損、腐食がない。取付状態に異常がないことを確認する。 | 良 ・ 否 |
| | (2)垂直部下端からかご敷居面までの垂直寸法が324mm以上であることを確認する。（フロント/リヤ側がある場合は、両側測定し最小寸法を記入する。） | (　　mm)<br>良 ・ 否 |

特記事項

注）当社が発行している定期検査情報に示す、戸開走行保護装置に関する検査内容のみを抜粋したものです。
検査内容の詳細は、当社ホームページの「定期検査情報」で確認してください。

［令和6年7月31日 様式］

三菱日立ホームエレベーター株式会社



2025 年 4 月 30 日版